

# 広島市歯科医師会だより

一般社団法人広島市歯科医師会

第 127 号

(H29.11.14)

## 今月のトピックス

平成 29 年度広島市保育園及び認定こども園保健功労者表彰 表彰式	1 ページ
“いい歯の日”特集で『口臭』について啓発	2 ページ
行事報告	
平成 29 年度 すこやか食生活推進リーダー研修会	3 ページ
第 4 回 支部長・副支部長会	3 ページ
保険講習会開催さる	4 ページ
広島ホームテレビ主催「ぼるフェス 2017」ブース参加	5 ページ
第 2 回「薬と健康のやく薬フェスタ」	5 ページ
支部だより	
中区支部	6 ページ
東区支部	7 ページ
南区支部	8 ページ
西区支部	10 ページ
各部からの報告	
保険・医療対策部	11 ページ
広報部	12 ページ
FM ちゅーピー	19 ページ
10 月定例理事会報告	19 ページ

## 平成 29 年度広島市保育園及び認定こども園 保健功労者表彰 表彰式

日時：11 月 2 日(木)午後 2 時

場所：「広島市役所本庁舎講堂」

広島市が設置・運営する保育園又は認定こども園において、園児の健康管理などの職務に従事する医師又は歯科医師を表彰し、その功績をたたえるとともに、園児の健康の保持及び増進の一層の振興発展を図ることを目的とする標記の制度が今年度創設された。これ

は、昨年 11 月 1 日に松井一實広島市長を来賓として開催された三師会での本会の提案が契機となったものである。(広島市歯科医師会だより第 115 号、124 号にて既報)。その表彰式が開催され、本会からは下表に示す 30 名が功労表彰を、21 名が永年表彰を受けた。



嘱託歯科医を代表して功労表彰を受け取る小田正秀氏(左)と臨席した来賓(右)

氏名	園名	表彰種別
石嶋 誠司	江波第二保育園	功労表彰・永年表彰
今井 多聞	みゆき保育園	功労表彰・永年表彰
今井 正人	竹屋保育園	功労表彰・永年表彰
小田 正秀	大州保育園	功労表彰・永年表彰
木村 一水	楠那保育園	功労表彰・永年表彰
木本 極	草津保育園	功労表彰・永年表彰
窪内 信男	己斐保育園	功労表彰・永年表彰
小島 隆	大河保育園	功労表彰・永年表彰
小松 泰雄	戸坂保育園	功労表彰・永年表彰
新谷 泰造	横川保育園	功労表彰
高橋 秀樹	ふくしま保育園	功労表彰・永年表彰
竹田 芳弘	井口保育園	功労表彰
田中 康弘	あけぼの保育園	功労表彰・永年表彰
田中 亮三	ふくしま第二保育園	功労表彰・永年表彰
玉川 博	元宇品保育園	功労表彰
田村 秀文	古田保育園	功労表彰
柄 博治	本川保育園	功労表彰・永年表彰
角田 達彦	三篠保育園	功労表彰・永年表彰
中本 雅志	荒神保育園	功労表彰・永年表彰
鍋島 耕二	出島保育園	功労表彰・永年表彰
橋本 隆	江波保育園	功労表彰
林 優美	庚午保育園	功労表彰
平岡 弘光	わかくさ保育園	功労表彰・永年表彰
平野 隆司	舟入保育園	功労表彰・永年表彰
藤範 恭弘	東浄保育園	功労表彰
三宅 茂樹	神崎保育園	功労表彰
横山 隆道	基町保育園	功労表彰・永年表彰
吉武 政博	青崎保育園	功労表彰・永年表彰
和田 本城	宇品東保育園	功労表彰・永年表彰
渡辺 幸男	小河内保育園	功労表彰

(敬称略、五十音順)

## “いい歯の日”特集で『口臭』について啓発

11月8日の“いい歯の日”に関する啓発事業の一環として広島ホームテレビから本会に出演依頼があり、川原正照会長が出演した。企画は「あさっては“いい歯の日”。口の健康を考える」というタイトルで、10月24日(火)に収録が行われた。

会長は口臭の原因は4つに分けられることを説明し、特に口臭の9割以上を占める病的口臭に関しては口の中に原因があることが多いため、歯科医師会員の歯科医院を受診し、歯周病の治療をしてもらうよう話をした。

また唾液が減少して発生する口臭については唾液腺マッサージが有効であることを解説した。

11月6日(月)午後5時36分からのJステーションで放映された。



唾液腺マッサージについて解説する川原正照会長(テレビ画面より)

## 行事報告

### 平成29年度 すこやか食生活推進リーダー研修会

日時：10月5日(木)午後1時30分

場所：広島市中区地域福祉センター5階「大会議室」

すこやか食生活推進リーダーとは、広島市健康づくり計画「元気じゃけん広島 21(第2次)」や「第3次広島市食育推進計画」の推進等に協力している栄養士・管理栄養士が加盟する団体である。地域で子どもを対象とした食育教室や低栄養予防教室、生活習慣病予防教室などの活動を行っている。

標記研修会において、有馬隆理事は「ライフコースを通じて目指す口腔機能の向上」と題する講演を行った。子どもについては、いわゆる「噛めない子、飲み込めない子」、「おくちポカン」、「口呼吸」等の問題について、歯科医師会としての取り組みや保育園嘱託歯科医としての自らの取り組みなどを紹介した。また、最近、NHKの「おはよう日本」で取り上げられて注目を集めた「デンタルネグレクト」について解説し、歯科医師会の取り組みを紹介した。高齢期については、オーラルフレイ

ルの概念や栄養学との関連、口腔機能向上等を解説し、加えて、「噛ミング30」や在宅要介護高齢者が抱える口腔の諸問題等についても言及した。

市歯会は今後も食育推進会議への参画などを通して、広島市の食育推進に協力していくことにしている。



研修会の様子

### 第4回支部長・副支部長会

日時：10月18日(水)午後7時30分

場所：県歯会館2階「大会議室」

標記の会が開催され、執行部から川原正照会長、熊谷宏副会長、本山智得専務理事が出席した。始めに川原会長より、衆議院選挙の真っ最中であるが、今回の総選挙では、我々の政策や歯科医療行政に理解のある先生方を当選させていただきたいのでご協力の程よろしく願いいたします、との依頼の挨拶があった。報告、協議事項は以下のとおりである。

## 中区支部

- 8月26日 広島市歯科医療福祉対策協議会  
総会  
" 江波圏域多職種連携会議  
8月28日 第4回中区地域ケアマネジメント  
会議  
9月 8日 中区地域保健対策協議会  
「第15回災害時医療研修会」  
9月12日 中区地域ネットワーク会議  
9月15日 中区ソフトボールチーム中締め会  
9月16日 国泰寺圏域多職種連携会議  
9月25日 第5回中区地域ケアマネジメント  
会議  
9月29日 広島県言語聴覚士会西部  
ブロック勉強会  
10月 1日 第13回中区健康よろず相談会  
10月14日 佐伯歯科医師会練習試合  
10月16日 吉島圏域多職種連携会議  
小委員会  
10月18日 衆院選 岸田文雄候補  
総決起大会

## 東区支部

- 8月23日 広島市支部長・副支部長会議  
及び懇親会  
8月26日 広島市歯科医療福祉対策協議会  
総会  
8月30日 第1回戸坂圏域の医療と介護の  
多職種連携会議  
9月 7日 がん診療に関わる地域医療  
連携研修会  
9月14日 フェイスネット「TRITRUS」  
講習会  
9月15日 東区多職種連携の会  
～ひがしの絆～  
9月29日 東区地域保健対策協議会  
" 第9回東区在宅医療・介護連携  
推進事業企画会議  
" 第6回常任理事会・理事会  
10月 1日 東区老人クラブ連合会芸能大会  
での健康相談  
10月 7日 ソフトボール東区主管練習  
10月13日 在宅医療研修会

- 10月17日 フェイスネット講習会カナミック  
スキルアップ講習会  
10月18日 東区在宅医療・介護連携推進事業  
同行研修 牛田圏域

## 南区支部

- 8月24日 南区支部納涼ビアパーティー  
" 南区支部ソフトボール結団式  
8月26日 広島市歯科医療福祉対策協議会  
総会  
9月 6日 フリースペース運営協議委員会  
の母子相談室への本の贈呈式  
" 第1回南区在宅医療・介護関係者  
研修会連絡会参加  
9月14日 南区支部理事会  
9月20日 福井康人先生 新規開業  
支部長面談  
10月12日 南区支部理事会  
" 第19回南区ボランティア  
フェスティバル準備会  
10月18日 広島市支部長・副支部長会議  
10月22日 第19回南区ボランティア  
フェスティバル

## 西区支部

- 9月 9日 ソフトボール練習  
9月28日 西区災害対策医療研修会  
9月29日 医療と介護の多職種連携  
10月 6日 西区支部・支部会

## 協 議

- ①中区  
・イベント、健診事業における自院標記について  
・ソフトボール大会について  
・広島市防災ポータル  
・その他  
②東区  
・地域のイベントへ市歯会や各区から参加す  
る際に使用するグッズについて  
③南区  
・多職種連携会議・研修会への参加者募集に  
ついて  
④その他  
・衛星携帯電話の使用方法について

## 保険講習会開催さる

日時：10月20日(金)午後7時30分  
場所：県歯会館2階「ハーモニーホール」  
本会主催の保険講習会が開催され、127名の  
会員が出席した。

県歯会より森本進常務理事、川本博也保険  
部理事、二井亮保険部理事を講師に迎え、保



険点数算定上の留意点等について詳しくご解説頂いた。

また、保険講習会開催に先立ち、科研製薬担当者による歯周組織再生剤「リグロス歯科用液キット」の説明会も併催した。



保険講習会の様子

## ==== 広島ホームテレビ主催「ぼるフェス 2017」ブース参加 =====

日時：10月28日(土)、29日(日)午前10時

場所：NTTクレド基町ビル6階「翼の広場」

広島ホームテレビの依頼により行われた標記の参加も今年で4回目となった。

例年通り子どもたち(幼児～中学生)に、大臼歯Ⅰ級窩洞レジン充填の体験いただき、その模歯はお持ち帰りいただいた。また、当会活動内容のパンフレットの配布や診療衣着用体験などご家族と共に楽しんでいただいた。

今年は、広島ホームテレビによる事前の告知CMもあり本ブース目当てにご来場の方も散見され、約380本の体験実績を記録した。台風の接近によるあいにくの天候が29日の午後まで続いたが後天候も回復し、盛況のうちに無事終了となった。

なお新入会員の、内田雄士氏・尾山奈々子氏・新谷奈穂子氏・名原行徳氏・橋田崇史氏・堀健太郎氏・古胡怜氏に協力いただいた。



ブースの様子

## ==== 第2回「薬と健康のやく薬フェスタ」 =====

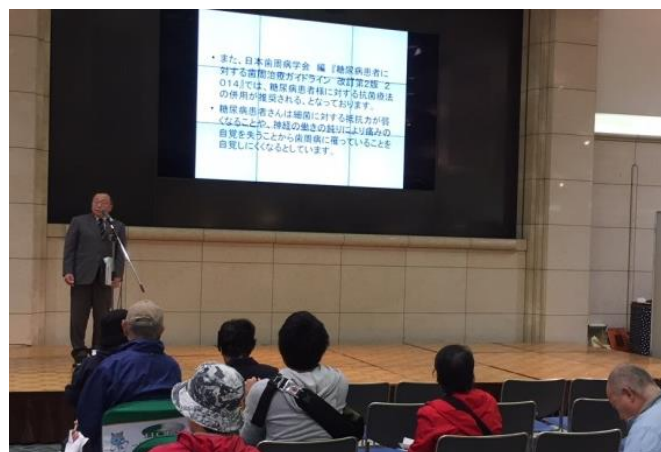
日時：10月29日(日)午後12時

場所：「広島駅南口エールエール地下広場」

広島市薬剤師会主催により標記会が行われた。

今回は、会場内でヘモグロビンA1c測定の実技会が行われるなど糖尿病重症化の予防を主題として開催された為、本会から「糖尿病に対する歯科のかかわりについて」と題して岸本一雄学術部理事が、糖尿病患者の口腔感染症の重症化症例や、近年の糖尿病の1つの症状として歯周病を捉えていこうとする斯界の動向、歯周病の初期治療が糖尿病の改善に繋がるという認識について講演を行った。

会場や主催者の薬剤師会から好評を得て終了した。



講演の様子

# 支部だより

## 中区支部

### 佐伯歯会との練習試合

日時：10月14日(土)午後7時

場所：廿日市市「昭北グラウンド」

佐伯歯会との練習試合は、ソフトボール大会に備えて、実戦経験が積める貴重な機会であり、それにより本番にむけて中区チームの士気と団結を上げていくのにはうってつけであった。

当日は南区より3名の選手が自主参加し、Aクラスに所属する佐伯A、Bの両チームに挑んだのであった。第1試合は佐伯Bと対戦、序盤は相手チームの守備の乱れにつけ込むことができ、大量得点を奪うことができたが、終盤こちらにも守備の乱れが生じ、リードを守り切ることができず、ドローであった。第2試合は優勝経験が豊富な佐伯Aと対戦。

この2試合を通して、いかに確実な守備が、試合の流れを引き寄せることができるのかと

いうことを学ぶ事ができた。今後の中区チームの大きな課題である。

今年も、中区チームのために練習試合を快く応じてくださった佐伯歯会に、深く感謝するとともに、大会当日の健闘を誓い合った。



練習試合での集合写真

### 平成29年度第2回幟町圏域多職種連携会議

日時：10月28日(土)午後3時

場所：RCC文化センター「601」

幟町圏域において本年度2回目の多職種連携会議が中区地対協の主催で開催された。この会議には地域包括ケアの推進を目的に、幟町圏域の医療・介護職57名が参加した。

まず、参加者の緊張をほぐすため、早口言葉を隣のグループに出題し、グループごとに発表していくというアイスブレイクが行われた。

続いて、「認知症の人の食べるを支える～飲み込めない・食べられないにも原因がある～」というテーマで事例が紹介され、グループごとにグループワークを行った。多職種の視点から、事例の患者に対してどのようにアプローチをすれば、「食べるを支える」ことができるかを検討し、発表した。

グループワーク終了後、ミニ解説として、安原明美広島県看護協会訪問看護ステーション「中央」摂食・嚥下障害看護認定看護師より、認知症患者の食事場面を通しての摂食嚥下機能評価とアプローチについて講演があった。摂食嚥下の5期モデルのそれぞれの段階について観察ポイント、アプローチの方法について説明があった。

続いて、中野和美広島逡信病院栄養管理室管理栄養士より、「管理栄養士の立場から」と

題して、栄養アセスメントや総合判断の栄養診断、栄養診断判定の根拠についてなどの講演があった。

グループワークの発表にもあったが、ひとりの患者に対して多職種が関与することで新たな視点が生まれ、患者のQOL向上に寄与することができるのではないかと、という意見が多く、多職種連携会議の意義を再確認するものであった。

その後会場を移し、懇親会が行われた。

なお、この会議には本会中区支部より香川次郎氏、加藤千季氏、小松大造氏、波田佳範氏、森田薫氏、山本正純氏、山本朋子氏の7名が参加した。



会議に参加した中区支部会員



## 東区支部

### 広島市東区地域保健対策協議会

#### 第9回在宅医療・介護連携推進事業企画会議及び第6回常任理事会・理事会

日時：9月29日(金)午後7時

場所：広島市東区総合福祉センター4階「小会議室」

標記会議が広島市東区地対協の主催で開催された。

第9回在宅医療・介護連携推進事業企画会議には、佐藤修治東区地対協会長(東区医師会会長)をはじめ、松出由美東区地対協副会長(東区区長)、医師、歯科医師、薬剤師、看護師、地域包括支援センター職員、認知症地域支援推進員、介護支援専門員、東区職員、東区医師会事務局のそれぞれの職域から計27名が参加した。新委員の紹介から始まり、これまでの各職域における取組みや研修会、情報交換会、多職種連携の会～ひがしの絆～などの報告と、今後の研修会、市民講座、多職種連携の会や同行研修、救急蘇生講習会などの開催予定について説明、協議が行われた。

その後、第6回東区地対協常任理事会・理事会が住吉秀隆常任理事の司会進行のもと、佐藤修治東区地対協会長の挨拶で始まった。

「平成29年度広島市在宅医療・介護連携推進事業」に係る事業費の交付について、「東区地対協運営委員会」、「女性会まつり」、「ぽっぴひがし」についての報告が行われ、今後予定されている「老人クラブ連合会」のイベント参加についての説明と、「東区保健・医療・福祉総合相談窓口」の報告があった。それぞれの会議には、能美和基市歯会理事と寺迫環東区支部長が出席し市歯会としての活動や取組みの報告等を行った。

最後に、松出由美東区地対協副会長(東区区長)の挨拶で閉会した。

### 東区老人クラブ連合会平成29年度「芸能大会」健康相談

日時：10月1日(日)午前10時

場所：東区総合福祉センター4階「ボランティア研修室」

東区老人クラブ連合会主催により、平成29年度の芸能大会が東区総合福祉センターで開催された。4階のボランティア研修室にて、東区医師会、広島市薬剤師会、市歯会東区支部がそれぞれ健康相談コーナーを設置し、医療相談他、骨密度測定、認知機能検査、体脂肪測定、お薬相談などが行われた。

市歯会東区支部は、歯科相談と共に、希望者には口臭測定や細菌検査を行った。また、口腔乾燥や口臭を訴える方も多く、唾液腺マッサージや、お口の機能を向上する体操のパンフレットを用いてオーラルフレイル予防の

啓発を行った。歯科コーナーには50名の来場があり、盛会のうちに終了となった。



東区支部から参加した新谷奈穂子氏、寺迫環氏、加藤正昭氏

### 在宅医療研修会

日時：10月13日(金)午後7時

場所：東区総合福祉センター3階「大会議室」

在宅医療研修会が標記場所で東区医師会と東区地対協の共催で行われ、本会東区支部から木村太言氏、能美和基氏、白神葉子氏、寺迫環氏、山崎和広氏、野村登志男氏、竹本美保氏、野坂覚氏の8人が出席した。堀内賢二東区地域対策協議会副会長の司会で始まり、佐藤修治東区地対協会長の挨拶の後、満田一博東区地対協理事を座長とし、研修会が行われた。

まず、中本早由美訪問看護ステーションホームナース中国看護師より『高齢・独居・腹膜透析患者への訪問看護を実施して』と題して症例報告が行われ、透析患者の高年齢化への対応が益々必要になること、血液透析と比較して在宅で行える腹膜透析は厳密な自己管理能力が必要であること、高齢者の腹膜透析においては家族等の支援や地域連携、および社会資源の活用が不可欠であることが示され

た。続いて、小田弘明小田内科クリニック院長により『慢性腎不全と在宅療養』と題して特別公演が行われた。日本での透析患者数は世界的にも多く、在宅や仕事を続けながらの透析治療に腹膜透析の選択が増加していることなどが示された。その後、機器メーカーより家庭用透析機器の使用法のデモが行われ、参加者は興味深く見学した。

最後に金谷雄生東区地対協副会長の閉会の辞があり、閉会した。



研修会の様子

### 第36回東区子育て交流ひろば運営協議会

日時：10月26日(木)午後1時

場所：東区総合福祉センター2階「保健指導室」

標記会は広島市東区役所の東区子育て交流広場“ぽっぽひがし”の運営を協議する会で市歯会東区支部(山崎和広氏が出席)、広島市東区医師会、広島市薬剤師会、東区民生委員児童委員協議会、東区社会福祉協議会、などの多職種の委員と東保健センター及び東区地域子育て支援センターの事務局によるサポートで活動している。

初めに山口禮子東区民生委員児童委員の司会で始まり、佐藤修治広島市東区医師会会長の挨拶があった。延田真樹子東保健センター事務局員により、“10周年記念イベント&ねこの手まつり”及び平成29年度“ぽっぽひがし”の実施結果についての発表があり、問題点や改善点について協議された。また平成30年度

“ぽっぽひがし”、11周年記念イベント&ねこの手まつりの実施計画について話し合われた。その後“ぽっぽひがし”で発生した事故について報告があり、再発防止に向けて協議された。最後に佐藤修治広島市東区医師会会長の閉会の辞により閉会した。



協議会の様子

## 南区支部

### 平成29年度 広島市在宅医療・介護連携推進事業 広島市南区市民公開講座

日時：10月21日(土)午後2時

場所：「広島市南区民文化センターホール」

南区地域保健対策協議会と南区役所の主催で、「今日からできる！健康寿命をのばすコツ～いつまでも地域でいきいきと暮らすために～」と題した市民公開講座が開催され、中高年層を中心として多数の住民が参加した。

野島秀樹南区医師会理事が司会を務め、森美喜夫南区地域保健対策協議会会長ならびに胡麻田泰江南区長の挨拶により市民公開講座は始まった。最初に、山田実筑波大学大学院人間総合科学研究科准教授が「今日からできる介護予防！地域で拓げる介護予防の輪」と題する基調講演を行った。「フレイル」の疫学、症状や予防(運動、栄養、社会参加)等について詳しく解説した。口腔についても口腔機能

の低下とサルコペニアの関連、舌圧測定の意義等について言及した。基調講演を受けて、有馬隆地域歯科保健部理事が「元気の源は”お口の健康” みんなでしよう！『かみかみ百歳体操』」と題する講演を行った。「オーラルフレイル」の症状、全身のフレイルとの関連、予防等について「かみかみ百歳体操」の実習を混じえながら説明した。また、口腔機能と認知症や転倒等の関連についても触れて、口腔機能の向上によってオーラルフレイルから全身のフレイルへの進行を防ぎ、健康寿命を延伸することの大切さについて述べた。次に広島県地域リハビリテーションサポートセンター(南区圏域)の森山由香氏が「健康寿命を



のぼそう！『がんばれ！！カープひろしま百歳体操』と題した講演を行った。地域介護予防拠点等で「ひろしま百歳体操」を行う様子がスクリーンに映写され、それを見ながら会場でも参加者が体操に取り組んだ。

最後に半田徹南区地域保健対策協議会副会長が閉会の辞を述べ終了した。



市民公開講座に出務した有馬隆理事

### 第18回南区ボランティアフェスティバル

日時：10月22日(日)午前10時

場所：「南区役所別館2階」

「結～つなげる・むすぶ・YUI～」をテーマに開催され、南区支部として玉川幸二南区支部長・吉武政博南区副支部長・松永陽子氏・平井由美氏・楠田雄一氏の出席により、歯科疾患相談、口臭チェック、口腔内細菌数検査、顎関節症の検診を行った。当日は台風21号の影響で朝から風雨が強く、来場者は少なめだったが、歯科コーナーには27名の来場者があった。悪天候の中、午前中にの澤田建彦市歯会顧問が訪問参加され激励をいただいた。



出務した南区支部会員

### 平成29年度「南区の在宅医療連携を考える研修会」～南区在宅医療相談支援窓口について～

日時：10月27日(金)午後7時

場所：南区役所別館4階「大会議室」

標記研修会が広島市南区地対協と広島市南区医師会の共催で開催された。

研修会は森美喜夫南区地域保健対策協議会会長の挨拶により開会した。続いて、南区医師会理事の野島秀樹氏が、「南区在宅医療相談支援窓口」の概要について説明した。これは南区医師会が広島市からの委託事業として本年2月より南区内の3病院(医療法人慈徳会真田病院、医療法人社団広島厚生会広島厚生病院、医療法人社団まりも会ヒロシマ平松病院)に設置しているもので、在宅療養患者の入院先の選定の円滑化、在宅医療に関する相談への対応等を業務としているとの説明であった。続いて、実際に相談業務を行っている3病院の担当者が事例紹介を行った。以上を受けて、「在宅医療相談に関する現場のニーズ」や「南区在宅医療相談支援窓口についての疑問」をテーマとして、グループ討議とその発表を行った。急変時の対応についての相談が

可能か、かかりつけ医がいない場合、不明な場合の対応、レスパイト入院への対応等について要望、質問があり、これらに対して、3病院の担当者から回答、解説がなされた。また、南区医師会からは今後、相談支援窓口の後方支援病院の整備を進めるなどの方針について説明があった。

最後に北本幹也南区医師会副会長の挨拶で閉会した。



研修会の様子

## 平成 29 年度大州包括圏域在宅医療・介護関係者研修会・連絡会

日時：10月31日(火)午後6時30分

場所：広島市総合福祉センター「会議室2」

標記研修会が広島市南区地対協の主催で開催された。

森美喜夫南区地対協会長の挨拶に続いて、広島県地域リハビリテーションサポートセンター(南区圏域)の森山由香理学療法士が「生きる意欲につなげる自立支援とは～リハビリ専門職の視点と新たな取り組み～」と題する講演を行った。生活行為の向上を目指すリハビリテーションプログラムとして、個別性の重視、「活動」「参加」に焦点をあてること、高齢者の意欲を引き出す工夫等の重要性について動画を混じえながら説明があった。その後、「生活の中で“やりたい・やれる”を増やすリハビリって？」をテーマとしたグループ

討議を行った。各職種からの具体的な状況設定に対する対応の報告、高齢者の自立を促すリハビリテーションへの提案などがグループ毎に発表された。

最後に、高杉純好南区医師会の医師の挨拶で閉会した。



研修会の様子

## 西区支部

### 10月支部例会

日時：10月6日(金)午後7時30分

場所：西区己斐本町「木松旅館」

虫の音が心地よい秋の夕暮れに、参加者を前にして今井多聞支部長の司会でまず報告事項として①8月23日支部長副支部長会議の報告、②8月26日地対協の報告、③その他として総選挙への対応と広島2区平口ひろし氏秘書の挨拶があり、協議事項として①22日に開催される「ソフトボール大会」、②11月5日開催予定の「西区民まつり」、③忘年会の開催日時、②新規開業申請についてが議題となった。



支部例会の様子

### 井口台・井口圏域、在宅医療・介護関係者の連携会議

日時：10月14日(土)午後3時

場所：西区井口草津「草津病院」

医師・歯科医師・薬剤師・看護師・民生委員・介護関係者・行政・包括センター職員等の多職種合計93名が参加して表記が開催された。西区支部からは岡田浩幸氏、豊田育星氏、濱岡代枝市、藤田友昭氏、堀健太郎氏、森川英彦氏の6名の会員歯科医師と今井多聞西区支部長が参加した。職域からの取り組み報告の中で豊田(育)氏が「～『食べる』～を支えるために歯科医師ができること」と題したプレゼンテーションを行った。事例紹介では口腔機能の低下が引き金となっているフレイル傾向のケースが取り上げられ、グループに分かれてディスカッションを行った。各グループ内でも全体の総括でも歯科の重要性があらためて認識されるような会議となった。



プレゼンテーションを行う豊田育星氏

## 保険・医療対策部

### 役員報酬等改正のポイント

平成 29 年度税制改正により、役員給与の見直しが行われました。

\*\*\*\*\*

#### 1. 役員に対する給与とは

各事業年度において、法人が役員に対して支給する給与の額のうち次に掲げる定期同額給与、事前確定届出給与又は、利益連動給与のいずれにも該当しないものの額は損金の額に算入されません（不相当に高額な部分の金額は損金の額に算入されません）。

役員に対する給与	内 容
定期同額給与	(1) その支給時期が1か月以下の一定の期間ごとである給与（以下「定期給与」で、その事業年度の各支給時期における支給額が同額であるもの (2) 定期給与につき、一定の給与改定がされた場合におけるその事業年度開始の日又は給与改定前の最後の支給時期の翌日から給与改定後の最初の支給時期の前日又はその事業年度終了の日までの間の各支給時期における支給額が同額であるもの (3) 継続的に供与される経済的利益のうち、その供与される利益の額が毎月おおむね一定であるもの
事前確定届出給与	事前確定届出給与とは、その役員の職務につき所定の時期に確定額を支給する定めに基づいて支給する給与で、一定の場合に応じてそれぞれに定める届出期限までに納税地の所轄税務署長にその事前確定届出給与に関する定めの内容に関する届出をしているものをいいます。
利益連動給与	同族会社以外の法人が業務を執行する役員に対して支給する利益連動給与で、一定の要件を満たすものをいいます。

#### 2. 改正の背景

持続的な企業価値の向上を促進する上で、経営陣に中長期インセンティブを付与するための多様な業績連動報酬や株式報酬の導入を可能とする環境整備を行うことが重要であるという背景から、役員給与等に係る税制が平成 29 年度税制改正により整備されました。

#### 3. 改正の内容

項目	改正前	改正後
<b>【役員給与税制全体】</b>		
各給与類型の整合性	金銭、譲渡制限付株式が対象 株式報酬は特定譲渡制限付株式を除き 損金算入不可	ストックオプションや株式報酬信託などを含め、全体として整合的な税制となるよう措置 株式報酬も事前確定届出給与、業績連動給与の要件を満たせば損金算入が可能
<b>【事前確定届給与】</b>		
グループ経営	特定譲渡制限付株式は、自社及び直接の完全子会社に付与対象が限定	株式報酬は完全子会社以外の子会社役員も付与対象
<b>【業績連動給与（利益連動給与）】</b>		



算定指標	利益の状況に関する指標のみが対象 (営業利益、当期純利益、ROE等)	株価等を指標に追加
計測期間	単年度のみが対象	複数年度の指標も対象

\*\*\*\*\*

## 広報部

### 今月の知っておきたいこと

リンク切れはご容赦を。  
記事の確認は自己責任にてリンク先でお願いします。  
最新記事はホームページにてご覧ください。

## ▼第5回今後の医師養成の在り方と地域医療に関する検討会

厚生労働省 (2017年10月21日)

<http://www.mhlw.go.jp/stf/shingi2/0000181655.html>

### ▼75歳以上、医療窓口負担2割に／財務省が改革案

社会保障費の膨張を抑えるため財務省がまとめた改革案が20日分かった。75歳以上の人が病院の窓口で負担する医療費の割合を現在の原則1割から2割へと引き上げるのが柱。医療・介護保険では高齢者一人一人の負担水準を決める上で、毎年の所得だけでなく金融資産の保有状況も判定材料に加え、資産が豊富で支払い能力のある人には、より多くの負担を求める制度設計も検討する。

25日の財政制度等審議会で示し、年末から来年にかけて議論を進める。負担増となる高齢者や、受診抑制により収入が減る可能性のある医療機関の反発は必至で、調整は難航が予想される。

共同通信 (2017年10月20日)

<https://this.kiji.is/294068703103665249?c=39550187727945729>

## ▼医療・介護制度改革のゴール、2040年に「リセット」提唱【中村秀一氏】

国際医療福祉大学教授で元内閣官房社会保障改革担当室長の中村秀一氏が19日、都内で開かれたシンポジウム(主催:医療経済フォーラム・ジャパン)で講演し、社会保障・税一体改革に基づき進められている医療・介護制度改革に関して「改革のゴールを2025年から2040年にリセットする必要がある」との見方を示した。

中村氏は「団塊の世代が75歳以上になり、医療・介護需要が増大する2025年というタイムリミットがある中で、財源となる消費税率10%引上げが(当初の2015年10月から)4年遅れている」と問題視。「『2025年問題』と言っているが、高齢者人口がピークを迎えるのは2042年。(改革の射程を)『2040年問題』にリセットして医療・介護の体制をつくるのが課題になる」と述べた。

その上で、今後必要となる政策の方向として、①全世代型社会保障の実現、②再分配機能の強化、③負担能力別の負担への転換—を挙げ、「私の考えでは、団塊の世代は75歳以上になっても医療保険の自己負担は3割でよい」とした。

### 薬価財源なしでは「プラス改定厳しい」

中村氏はまた、2018年度診療報酬・介護報酬同時改定にも言及。診療報酬については「薬価の引下げ分の財源が出ない限り、プラス改定は相当厳しい」との見立てを語った。また、官邸主導で進められている医療ICTの活用推進や社会保険診療報酬支払基金の組織体制改革に触れ、「ビッグデータ時代に相応しいデータ収集方法が必要となれば、レセプトや点数表のあり方も問題になる。意外な方面から点数表改革が大きく進む可能性がある」と指摘した。

介護報酬については「保険料財源がない中で、今年度に介護職員の処遇改善を目的とした特別改定があり、18年度改定分の財源を先食いした形とも言える」とし、診療報酬同様、「かなり厳しい改定になるだろう」と述べた。

## ▼口の中の細菌、腸難病の原因か／予防や治療に期待

普段、口の中にいる細菌が腸の中で増えると、腸に慢性の炎症が起きる潰瘍性大腸炎やクローン病といった難病の原因となる可能性がある、慶応大などのチームが20日付の米科学誌サイエンスに発表した。チームの本田賢也・慶応大教授は「口の中を清潔にすれば、腸の難病の治療や予防につながるかもしれない」と話している。

腸の粘膜に慢性の炎症や潰瘍が起き、腹痛や下痢の症状が出る潰瘍性大腸炎やクローン病は、原因不明で完全に治療する薬は今のところない。

チームは、クローン病患者の唾液を、無菌状態で育てたマウスの口に入れると、腸内で免疫の細胞が増える例があることを発見した。

共同通信 (2017年10月20日)

<https://this.kiji.is/293821197736707169?c=39550187727945729>

## ニュースピックアップ

## ▼血液検査・レントゲン、「医師の説明不足」4割…若い世代ほど理解できず

血液検査やレントゲンなどの臨床検査の結果を十分に理解している患者は3割に満たず、4割は「医師が説明してくれなかった」と感じているなどとする調査結果を、日本臨床検査薬協会がまとめた。今年2月、国内の20～69歳の男女1000人を対象に、臨床検査に関する意識調査をインターネットで行った。検査結果の理解は、「できた」が28%に対し、「少しだけできた」51・7%、「できなかった」20・3%だった。「できなかった」割合は年齢が若いほど高く、20代は28・5%、30代は27%だった。

検査の内容と結果を医師が説明したかについては、「説明してくれた」と回答したのは「必ず」と「多少」を合わせて59・6%に対し、「説明してくれなかった」は「あまり」と「ほとんど」を合わせ40・4%で、検査に疑問や不安が残る可能性があるとして分析している。

協会の担当者は「患者側にも一定の知識がないと医師に説明を求めにくい。検査結果を知ることは治療の第一歩なので、患者の理解が深まるような取り組みを進めたい」と話している。

yomiDr (2017年10月2日)

[https://yomidr.yomiuri.co.jp/article/20171002-0YTET50023/?catname=news-kaijitsu\\_news](https://yomidr.yomiuri.co.jp/article/20171002-0YTET50023/?catname=news-kaijitsu_news)

### Point of View

◎現代の若者は「ゆとり教育」のためか、自分からアプローチすることが苦手なのでしょうか。説明をしっかきすることも大切ですが、誰でもわかるように説明の仕方を工夫する努力も必要とされるのかもしれませんが。「患者さんに事前に勉強しておいてもらう」というのは、医療人側の都合なのではないでしょうか。

## ▼使い捨て医療機器を再使用 大阪市立大病院

大阪市立大病院は20日までに、国の通知で再使用が禁じられている使い捨て用の医療機器を滅菌処理して使っていたと明らかにした。2015年9月以降で約130人の患者に使用しており、健康被害を調査している。病院庶務課によると、医療機器は骨に穴を開ける「ドリルバー」約40種類や、骨を切断する「ブレード」約10種類。ドリルバーは整形外科や形成外科、歯科口腔(こうくう)外科などで使われていた。洗浄して滅菌していたという。手術の際には多数のサイズを並べて患者に合う機器を使うが、手術後には全て破棄する必要がある。庶務課の担当者は「全て破棄するのは非効率との声があり、結果として今まで再使用を続けてしまった」としている。

厚生労働省は04年以降、3回にわたり、感染防止の観点から、使い捨ての医療機器は再使用しないよう各都道府県に通知を出している。

8月に兵庫医大病院で再使用が発覚した問題を受けて、大阪市立大病院は8月30日に院内調査を実施。再使用が分かり、9月1日に近畿厚生局に報告した。〔共同〕

日本経済新聞 2017年9月20日 [https://www.nikkei.com/article/DGXLASHC19H6P\\_Z10C17A9000000/](https://www.nikkei.com/article/DGXLASHC19H6P_Z10C17A9000000/)

### Point of View

◎医科において、使い捨て医療機器を滅菌処理して再使用しているとの指摘があったようです。記事文面から想像すると、歯科におけるインプラント時に骨に穴をあけるドリルのようなものかと思われます。高価な医療機器を使い捨てにしていると、それぞれ費用対効果が低くなり、医療費の増大に直結するようと思われます。効率的な方法を考える必要があると思います。

## ▼院内調査の届け出 751件 医療事故調査制度の開始 2年で

患者の予期せぬ死亡を対象とする医療事故調査制度で、第三者機関の日本医療安全調査機構（東京）は10日、「院内調査が必要」として9月に医療機関から届け出があった事案は35件と発表した。平成27年10月の制度開始から2年間の累計は751件となった。機構は制度開始前、院内調査件数は年に千～2千件と見込んでいた。当初の想定を大きく下回っており、制度の周知などが依然として大きな課題として指摘されている。9月に届け出があった35件の内訳は、病院（20床以上）が34件、診療所（20床未満）が1件。地域別では関東信越で14件、東海北陸と近畿でそれぞれ7件、東北3件、九州2件、北海道と中国四国が1件ずつだった。診療科別では内科が7件、循環器内科4件と続き外科と消化器科、産婦人科、泌尿器科、呼吸器内科ではそれぞれ3件だった。

産経ニュース 2017年10月10日

<http://www.sankei.com/life/news/170905/lif1709050008-n1.html>

### Point of View

◎「医療事故」の対応については、非常に難しい問題かと思えます。この調査を行う第三者機関の構成がどうなるか、遺族に調査結果をどこまで開示するのかというような、まだ検討を重ねていかなければいけないことが、残っているかと思えます。医師側も、調査結果が、民事訴訟や警察の捜査の証拠として使われるのであれば、責任追及を恐れて誰も本当の証言をしなくなる可能性もあることから、現状では、医療事故調査制度が有効に機能しにくい状態にあるのかもしれない。

## ▼医療費の膨張 小休止 16年度概算 0.4%減、75歳以上は増加

厚生労働省が15日発表した2016年度の概算医療費は41兆3千億円と、前年度と比べて0.4%減った。減少に転じるのは診療報酬が大幅にマイナス改定された02年度以来、14年ぶり。薬価（薬の公定価格）引き下げなどが奏功したが、75歳以上の高齢者に限ると医療費は増え続けている。今秋本格化する18年度の医療費抑制策を巡る議論は、薬の「費用対効果」をどう値段に反映させるかといった対応が焦点になる。

15年度はC型肝炎を治療する高額薬剤の「ハーボニー」と「ソバルディ」が集中的に使われた影響で医療費が3.8%増えた。16年度はこうした薬剤の使用量が減ったうえに薬価が約3割引き下げられた影響が大きく出た。医療費のうち薬代と薬剤師の技術料を合わせた「調剤」は4.8%の大幅な減少となった。

全体の医療費はわずかに減少したが、75歳以上に限れば1.2%のプラスだ。1人当たり平均で32万5千円の医療費は、75歳以上では93万円にもなる。高齢化と高額な薬剤や医療機器の登場により医療保険財政は膨張圧力が強く、厚労省も「医療費の減少は一時的だ」と説明する。

医療技術の進化と高額化に対応しようと進んでいる議論の一つが、費用対効果の薬価への反映だ。効果が高い割に価格が低い薬は値段を引き上げる一方で、価格に見合う効果が出ていないものは薬価が引き下げられる。

厚労省は中央社会保険医療協議会（厚労相の諮問機関）で、具体的な価格調整の方法や費用対効果を判断する際の基準について話し合っている。年内に詳細を詰めて来年度の本格導入を目指す。

費用対効果を薬価算定に取り入れている代表例は英国だ。費用対効果が低いと判断すれば保険適用から外すこともある。日本ではそこまで議論が至っていないものの、医療保険の持続性を高めるため検討を求める声が政府、与党内でも高まる可能性がある。

18年度は医療サービスや薬の値段の公定価格である診療報酬が改定される年にあたる。国の予算編成では高齢化などによる社会保障費の自然増を1300億円圧縮する必要があり、薬価引き下げなどで捻出する考え。医師の技術料にあたる診療報酬本体についても、政府内には逼迫する財政状況を考慮して厳しい改定で望むべきだとの声も多い。改定率は年末に決まるが、プラス改定を望む自民党厚労族や業界団体との間で駆け引きが激しくなる。

日本経済新聞 2017年9月15日

[https://www.nikkei.com/article/DGXLASDC15H1M\\_V10C17A9EA4000/](https://www.nikkei.com/article/DGXLASDC15H1M_V10C17A9EA4000/)



### Point of View

◎16年度の概算医療費は前年度に比べて微減するようです。しかし、75歳以上に限れば、1.2%の増加となっているようです。そのため、今回の医療費の減少は一時的なものとされています。今回は薬価の引き下げが奏功したようですが、今後は医師の技術料にあたる診療報酬本体についても引き下げたいようです。今後、医療制度はどうなって行くのでしょうか。

## ▼受動喫煙でも大動脈疾患 死亡リスク2倍超に

チームは昭和63～平成2年、全国の4万8677人（40～79歳）に喫煙や受動喫煙の頻度、生活習慣や健康状態について尋ね、その後、94%の人を平均16年にわたって追跡調査した。その結果、大動脈の内側が裂ける「大動脈解離」で66人、大動脈がこぶのように膨らむ「大動脈瘤（りゅう）」が原因で75人が死亡していた。チームは受動喫煙の頻度を3つに分類。家庭内外でほとんどない「程度が低い」、家庭内でほぼ毎日2時間以上または職場や飲食店でほぼ毎日の「程度が高い」、その中間の「中程度」で、亡くなるまでの年数を考慮して分析した。

その結果、「程度が高い」人は、大動脈解離や大動脈瘤のために死亡するリスクが「程度が低い」人の2.35倍に上った。また、「以前たばこを吸っていた」人のリスク（1.62倍）より高かった。喫煙者は4.09倍だった。さらに、家庭内より職場や飲食店での受動喫煙の方が、リスクが高くなることも分かった。これについて山岸准教授は、「煙にさらされる時間が長く、煙の量も多いためではないか」と推測する。飲食店などの受動喫煙対策を強化する健康増進法の改正では「十分な対策を講じなければならない」と注意喚起している。

産経ニュース 2017年9月26日

<http://www.sankei.com/life/news/170926/lif1709260009-n2.html>

### Point of View

◎このデータを見ても、やはり受動喫煙対策は必要であると考えられます。データからも言えますが、喫煙する人より、受動喫煙にさらされる人のほうが、様々な病気にかかるリスクが上がります。また、家庭内より職場や飲食店での受動喫煙の方が、病気のリスクが高くなることもわかってきました。今後も受動喫煙については、正確なデータを取り、適切な対策を取ってもらいたいものです。

## ▼科学的根拠乏しい「免疫療法」がん拠点15病院で実施…保険外、効果未知数

がんの専門的な診療を担う国指定の434拠点病院のうち、科学的根拠が乏しく、保険が利かないがんの免疫療法が、2015年に少なくとも15病院で行われていたことが、読売新聞の調べで分かった。

各拠点病院（がん診療連携拠点病院、地域がん診療病院）が国に提出した「がんに関する保険外診療の実施状況」の資料から、免疫療法の実施状況を集計した。

これらの診療を1人以上の患者に行っていた拠点病院の都道府県別内訳は、茨城2、東京1、大阪2、岡山2、山口2、愛媛1、福岡2、宮崎1、鹿児島2。がんを攻撃する免疫力を高めるとする治療法が多い。治療費はまちまちで「通常は5回実施157万5000円」と公表している病院もある。ただ、こうした治療を行う拠点病院のすべてが実施を報告しているわけではなく、実態は不明だ。

中には、患者の費用負担がほとんどない臨床研究として行う大学病院も含まれている。国立がん研究センターの若尾文彦・がん対策情報センター長は「保険適用を目指した臨床研究は進めてほしい。だが、拠点病院には科学的根拠が確立された治療を普及させる役割があり、効果が証明されていない免疫療法を安易に導入すべきではない」と話している

### 厚生省、実態調査へ

国が指定するがん診療の拠点病院の一部で、治療効果が確認されていない免疫療法が実施されていることについて、加藤厚生労働相は3日の閣議後記者会見で、「どういう形で実施しているのか、速やかに調査したい」と述べ、近く実態調査を行うことを明らかにした。厚生労働省によると、調査対象は全国に434ある拠点病院すべて。厚生労働省は、2019年度から適用する拠点病院の新しい指定要件について、有識者検討会で議論をしており、18年春頃に結論を出す方針だ。

yomiDr (2017年10月4日)

[https://yomidr.yomiuri.co.jp/article/20171004-OYTET50005/?catname=news-kaisetsu\\_news](https://yomidr.yomiuri.co.jp/article/20171004-OYTET50005/?catname=news-kaisetsu_news)

### Point of View

◎せつかく国が指定して先進医療を担うべき病院が、効果のほどが定かでない薬を使うとは、信頼を裏切られたようで悲しくなります。今後は指定の意義をよく理解して確かな医療に努めてもらいたいものです。

## ▼産婦人科と産科、最少更新 26年連続減、出生数が影響

厚生労働省は26日、2016年医療施設調査を公表した。昨年10月時点で産婦人科と産科を掲げていた全国の病院は1332施設(前年比21施設減)で、現在の形で統計を取り始めた1972年以降の過去最少を更新した。26年連続の減少で、内訳は産婦人科が1136施設、産科が196施設。小児科も前年より24施設少ない2618施設で、23年連続減となった。

厚労省は「出生数の減少や少子化が影響した。就業環境の厳しさから医師が不足している状況もある」と分析。産婦人科と産科に関しては、施術を巡り患者から訴えられる「訴訟リスク」への懸念もあるとしている。

47NEWS 2017年9月26日

<https://this.kiji.is/285371015213696097?c=39546741839462401>

### Point of View

◎産婦人科と産科の施設がさらに減少し、26年連続の減少で過去最少となったようです。出生数の減少や、少子化が影響したとされています。歯科においても、小児のう蝕罹患率の減少等により、産婦人科のように施設が減少していくこととなるのでしょうか。これは対岸の火事のように思えません。

## ▼糖尿病疑い、初の1千万人 12年から50万人増

糖尿病が強く疑われる成人男女が2016年時点で推計約1千万人に上ったことが21日、厚生労働省の国民健康・栄養調査で分かった。前回調査の12年から50万人増となり、初めて大台に乗った。一方、糖尿病予備軍とされる人は前回より100万人減の約1千万人だった。

厚労省の担当者は「患者増は、糖尿病になる割合が高い高齢者が増えていることが影響している」と分析。予備軍減少は「メタボリック症候群への対策が進んだため」とみている。

調査は16年10～11月、無作為抽出した約2万4千世帯に実施、1万世帯余りから回答を得た。

47NEWS 2017年9月21日

<https://this.kiji.is/283536304213656673?c=39546741839462401>

### Point of View

◎糖尿病が疑われる成人男女が増加を続けているようです。歯周病が糖尿病と関係していることは、もはや歯科界においては常識的なことですが、世間一般においてはまだまだ認知が足りていないように思われます。これからも広く世間に知らせて、健康寿命の改善に努められたらよいと思います。

## ▼高価な薬の成分含む卵、ニワトリ産む…薬を安く

遺伝子を自在に改変できるゲノム編集の技術を利用し、がんや肝炎の治療にも使われる高価な薬の成分を含む卵をニワトリに産ませることに、産業技術総合研究所関西センター(大阪府)などが成功した。薬を安価に作る新手法で、共同研究する企業が来年中にも、まず研究用試薬として従来の半額程度の値段で販売する予定。将来は、薬を現在の1割以下の価格に抑えることを目指す。

この成分は、免疫に関係するたんぱく質の一種「インターフェロンβベータ」。悪性皮膚がんや肝炎の治療薬のほか、ウイルス研究用の試薬としても使われる。ただ、生産には大規模な培養施設が必要で、成分自体の価格も数マイクロ・グラム(マイクロは100万分の1)あたり3万～10万円と高価だった。

同センターと農業・食品産業技術総合研究機構(茨城県)、試薬輸入販売商社「コスモ・バイオ」(東京都)の研究チームは、ニワトリの精子のもとになる細胞に、この成分を作る遺伝子をゲノム編集で導入し卵に移植。生まれた雄を複数の雌と交配させ、遺伝子を受け継いだヒナを育てた。

7月下旬、北海道小樽市にある同社の鶏舎で、ゲノム編集した遺伝子を持つ雌が産卵。卵白に、この成分が含まれることを確認した。現在、3羽の雌が1～2日に1個ずつ産卵しているという。将来は卵1個から数十～100ミリ・グラムの成分を安定的に作り、大幅な低コスト化を図る。ただ、医薬品は安全面などのハードルが高いため、まず研究用試薬の生産に乗り出すという。

北條裕信・大阪大教授(天然物化学)の話「安価な薬の開発が期待できる成果だ。今後、卵に含まれる成



分の性質を詳しく調べ、医薬品としての安全性を見極める必要がある」

yomiDr (2017年10月7日)

[https://yomidr.yomiuri.co.jp/article/20171010-OYTET50012/?catname=news-kaisetsu\\_news](https://yomidr.yomiuri.co.jp/article/20171010-OYTET50012/?catname=news-kaisetsu_news)

#### Point of View

◎卵を使ってワクチンを培養する方法は古くからあったように思います。新薬の開発で一番ネックとなるのが、費用と期間ではないでしょうか。薬価を低く抑えるためにもこのような研究が発達することが望まれます。今後は「安全性の確認」が必要だそうですが、早く完成すればよいですね。

## ▼無痛分娩死で院長「パニックで人工呼吸できず」

大阪府和泉市の産婦人科医院「老木おいき レディースクリニック」で1月、麻酔で出産の痛みを和らげる無痛分娩ぶんべんをした女性が死亡した事故で、担当した男性院長（59）が府警の調べに、「人工呼吸をしようとしたが、パニックになりできなかった」と供述していることが、捜査関係者への取材でわかった。

府警は、救命に必要な処置を怠ったとして、6日に院長を業務上過失致死容疑で書類送検する。

無痛分娩を巡り、医師が書類送検されるのは異例。院長は容疑を認めている。

捜査関係者によると、女性は同府枚方市の長村千恵さん（当時31歳）。院長は1月10日、長村さんに局所麻酔を実施。長村さんが呼吸困難を訴えたのに、経過観察を怠って容体急変の兆候を見逃したうえ、急変後も人工呼吸を行わず、同20日、搬送先の病院で、低酸素脳症で死亡させた疑いが持たれている。

院長は「容体変化が急で、対応が追いつかなかった」とも話しているという。子どもは搬送前に帝王切開で生まれ、無事だった。

司法解剖結果などから、長村さんは麻酔が効き過ぎて呼吸困難に陥ったことが判明。こうした場合、器具を使って人工呼吸を行えば回復が見込めるが、院長は帝王切開を優先したという。

yomiDr (2017年10月6日)

[https://yomidr.yomiuri.co.jp/article/20171006-OYTET50011/?catname=news-kaisetsu\\_news](https://yomidr.yomiuri.co.jp/article/20171006-OYTET50011/?catname=news-kaisetsu_news)

#### Point of View

◎現場に麻酔医が参加していなかったのでしょうか。歯科の局所麻酔時でも、施術後はだれかが患者さんから目を離さず、わずかな兆候でも見逃さないようにすれば重大な事故を防止できるのではないのでしょうか。加えて、万一の事態に対面したときにパニックにならないよう「救急蘇生の講習」を受けておくべきかと思われます。

## ▼座り続ける生活で死亡リスク増、「30分毎に運動を」 米研究

日常生活の中で座って過ごす時間が長過ぎると、早死にするリスクが高くなるという研究結果を、米国のチームが11日に明らかにした。一度に連続して座る長さが30分間を超えた場合、リスクはさらに上昇するという。米コロンビア大学医学部のキース・ディアス博士が率いるチームが、11日発行の米内科学会機関誌「AIM」に発表した。チームは白人よりも黒人、とりわけ米国南部の黒人に脳卒中が多発する理由を探るため、米国立衛生研究所（NIH）の出資で実施された地域別、人種別の脳卒中研究プロジェクト「REGARDS」に着目。同プロジェクトに協力した参加者のうち、45歳以上の白人と黒人合わせて7985人の日常動作を、平均4年間にわたって追跡した。対象者の腰に加速度センサーを装着し、座って過ごす時間の長さを計測したという。研究期間中に死亡した人の数を原因にかかわらず合計すると340人だった。チームがデータを分析した結果、対象者全体の平均では、睡眠時間を除いた1日16時間のうち座っている時間が12.3時間、一度に座り続ける長さは11.4分だった。

従来の研究で成人は1日のうち平均9～10時間を座って過ごすとされてきたが、今回は中高年が対象だったこと、自己申告ではなくセンサーを使ったことにより、これを上回る数字が出たとみられる。チームによれば、1日に座っている合計時間や、立ち上がりせずに座り続ける時間が長くなるにつれ、年齢や性別、人種、体格指数（BMI）、運動習慣にかかわらず、死亡のリスクが高くなることが分かった。例えば1日に合計13時間以上座る人は11時間前後以下の人に比べ、死亡率が2倍に上昇していた。また、一度に座り続ける時間が30分未満の人は、30分を超える人より死亡のリスクが55%低かった。90分以上座り続けることが多かった人の死亡率は、そうでない人の2倍近くに達していた。両方の要因を合わせると、1日に計12.5時間以上座って過ごし、一度に30分以上座り続けていた人の死亡率が最も高かった。1日12.5時間を下回るグループでは、一度に座る長さの影響はほとんどみられなかった。座るという行動が健康に影響を及ぼす仕組みは解明されていない。専門家の間でも、座っているうちに「インスリン感受性が低下する」「消費カロリーが低下する」など、さまざまな説がある。それでは立ったまま作業ができる「スタンディングデスク」を使うのは有効か、という質問に対し、ディアス博士は「座った姿勢より健康的だという根拠



は限られている」と述べた。同博士は長時間座る生活が避けられない場合の最善策として、30分ごとに休憩を取って動き回ることを提案。「我々の研究は、この一点を改善するだけで死亡リスクが下がり得ることを示している」と強調した。

Yahoo News 2017年9月12日

<https://headlines.yahoo.co.jp/hl?a=20170912-35107140-cnn-int>

#### Point of View

◎我々は仕事柄、どうしても座る時間が長いかと思えます。ただ、学生や事務系の仕事をしている人も同様であり、12時間以上座って過ごし、一度に30分以上座り続けている人は、比較的が多いのではないのでしょうか。健康で長生きをするためには、意識して歩いたり、立つ時間を増やしたりする工夫をしないといけませんね。

## ▼「果物が動脈硬化のリスクを低減」改訂動脈硬化性疾患予防ガイドラインで推奨

秋本番一。果物がおいしい季節がやってきた。しかし、「果物を食べると太る」といったイメージから避ける人も少なくないという。今年改訂された「動脈硬化性疾患予防ガイドライン」では、果物の適量摂取が冠動脈疾患などのリスクを低減させる可能性が記され、健康効果の見直しが進んでいる。専門家らは「健康なら、気軽に果物を食べてほしい」と呼びかけている。メタボリックシンドローム（内臓脂肪症候群）や肥満によって引き起こされる動脈硬化。進行すると心筋梗塞や脳梗塞の危険因子となってしまう。

「動脈硬化性疾患予防ガイドライン」は、日本動脈硬化学会が動脈硬化による疾患の予防や診断についてまとめた指針で、今年6月に5年ぶりの改訂が行われた。果物の摂取は以前から推奨されていたが、疾患予防との関連は明らかにされていなかった。改訂では「果物の摂取量を増加させることは動脈硬化性疾患予防に推奨できるか」との問いを記載。「果物の摂取は冠動脈疾患および脳卒中リスクを低減させる可能性があり、糖質含有量の少ない果物を適度に摂取することが勧められる」と明記し、強く勧められる推奨レベルAに分類された。

国立循環器病研究センター予防健診部の小久保喜弘医長は「果物の良い研究成果が蓄積されてきた結果」と評価した上で、「太る」と誤解があるが、果糖と通常の砂糖は代謝メカニズムも違う。健康であれば、適量の果物が肥満や糖尿病を引き起こすとは言いにくい」と指摘する。ガイドラインによると、果物の摂取量が多いほど心血管疾患や冠動脈疾患、脳卒中などのリスクが低下。特にナシやかんきつ類、リンゴとの関連性が強いという。グレープフルーツやキウイ、ベリー類で、動脈硬化の要因となる悪玉コレステロールと中性脂肪が減少したとの結果も紹介されている。小久保医長は「日本には“こたつにミカン”という風景がある。手軽に手を伸ばせる環境を作ったり、料理に加えたりしてほしい」と呼びかける。では、どれくらいの果物を食べればいいのか。厚生労働省の食事バランスガイドでは、活動量「ふつう」の成人女性と「低い」成人男性の場合、1日に必要な果物は、1つ（100グラム）を単位として2つ（200グラム）。ミカン2個、リンゴ1個、ナシ1個、ブドウ1房、キウイ2個程度。英研究機関の解析では、1日200グラムで、冠動脈疾患リスクが10%、脳卒中リスクが18%、全がんリスクが4%低くなったという。女子栄養大学栄養学部の林芙美准教授は「栄養指導に使ってきた200グラムという数字が、適量と裏付けされるようになってきた」と分析する。果物の摂取は心血管疾患などの予防に推奨される一方、ガイドラインは、果糖ぶどう糖液糖などを使った加工食品のとりすぎは肥満につながるとし、生鮮果物と混同しないよう呼びかけている。林准教授は「皮をむくのが面倒という理由で敬遠する人も多いが、切ってスプーンですくって食べられるキウイや皮ごと食べられるブドウなど手軽な果物も多い。旬の果物を甘いもの代わりにしたり、お土産にしてもいいのでは。果物を見直してほしい」と話している

産経ニュース 2017年10月3日

<http://www.sankei.com/life/news/170905/lif1709050035-n1.html>

#### Point of View

◎果物を食べると太るというイメージがどうしても付きまといますが、適切な量を食べれば、太ることもなく、健康にもいいということです。ただ、実際問題、毎日食べるとなると、「日持ちせず買い置きが難しい」「値段が高い」などの理由で、毎日継続して、果物を摂取するのは難しいかもしれません。適切な摂取量は200gということで、これをうまく摂取できるよう心掛けたいですね。

## FM ラジオ「FM ちゅーピー76.6MHz」

FM ラジオ「FM ちゅーピー76.6MHz」サイマルラジオスタート

「お口の健康広場デンタルパーク」 広島すまいるパフェ 第1・3水曜日午後0時50分から



### 11月1日放送

『「8020」いい歯の表彰式ならびに『グランド  
ビューティフル歯ッション賞」認定授与式について』  
広島市歯科医師会 能美和基氏

11月8日(水)に広島市市役所で標記表彰式  
ならびに認定授与式が開催されます。「8020」  
を達成するため秘訣や、式典の経緯などにつ  
いて広島市歯科医師会の能美和基先生がお話  
しします。お口に関する悩みや質問はメール  
[dental@chupea.fm](mailto:dental@chupea.fm)、ファクス 082(297) 7660 へ。

### 11月15日放送

「歯を抜いた後の対応について」  
広島市歯科医師会 広報部

歯を抜いた後の違和感について自身でどう  
すれば良いかや、酸の強いものは歯を溶かし  
てしまうのか、口臭についてなど、リスナー  
さんからのご質問へ広島市歯科医師会の先生  
がお話しします。お口に関する悩みや質問は  
メール [dental@chupea.fm](mailto:dental@chupea.fm)、ファクス 082(297)  
7660 へ。

## 10月定例理事会報告

### 「部外報告」

- 9月27日 広島大学病院栗原教授との協議
  - 9月28日 県警本部捜査4課関連所轄署  
挨拶廻り
  - 10月 2日 広島ホームテレビとの協議
  - 10月11日 「HOME ぽるフェス2017」説明会
  - 10月12日 「HOME ぽるフェス2017」CM撮影
  - 10月22日 (県)健康ソフトボール大会  
(台風の為中止)
  - 10月24日 広島ホームテレビ収録
  - 10月21-25日 社保診療報酬審査  
(合議25日)
  - 10月 2日 再審査
- ### 「連盟関係」
- 9月29日 齊藤鉄夫を囲む懇談会
  - 10月 5日 ゆざき英彦広島県知事選挙  
事務所開き神事
  - 10月 6日 「ゆざき知事を囲む県政懇談  
勉強会2017年10月度」
  - 10月10日 衆議院議員選挙公示
  - 〃 岸田文雄候補出陣式  
(広島第1選挙区)
  - 〃 平口ひろし候補出陣式  
(広島第2選挙区)
  - 10月12日 岸田文雄候補陣中見舞い
  - 10月18日 岸田文雄候補総決起大会

- 10月19日 平口ひろし候補総決起大会
- 10月22日 第48回衆議院議員総選挙投票日
- 10月26日 広島県知事選挙告示
- 〃 ゆざき英彦候補出陣式

### 「総務関係」

- 10月 4日 第2回救急蘇生研修会
  - 10月16日 創立100周年記念事業準備委員会  
第6回会誌編纂委員会
  - 10月18日 第4回支部長・副支部長会
  - 10月20日 リグロス歯科用キット説明会
  - 〃 保険講習会
  - 10月23日 三役会
  - 10月25日 定例理事会
- ### 「入会退会関係」
- 9月28日 西区支部 箸方厚之先生入会
  - 10月12日 南区支部 福井康人先生入会
- ### 「県歯理事会関係」
- 10月 5日 県歯理事会

### (1) 総務部 (中島理事)

- 10月 5日 入会後面談(箸方厚之先生)
- 10月13日 総務部委員会

### (2) 学術部 (岸本理事)

- 9月29日 広島県言語聴覚士会第3回

西部ブロック勉強会  
 10月 2日 学術部小委員会  
 10月 4日 平成29年度第2回救急蘇生  
 研修会  
 10月10日 岸田文雄候補出陣式  
 10月11日 2017 ぽるフェス出展説明会  
 10月12日 2017 ぽるフェスブース集客  
 告知スポットCM収録  
 10月13日 学術部委員会  
 10月18日 2017 ぽるフェス歯医者さん  
 体験ブース告知編CM  
 ナレーション収録  
 10月18日 岸田文雄候補総決起大会  
 10月20日 保険講習会

**(3) 保険・医療対策部 (瓜生理事)**

10月 5日 新規個別指導  
 10月10日 岸田文雄候補出陣式  
 " 会員面談  
 10月12日 (県)保険部常任委員会  
 10月15日 集团的個別指導  
 10月16日 社会保険指導者研修会(東京)  
 10月17日 会員面談  
 10月18日 岸田文雄総候補決起大会  
 " 国保連合会歯科再審査部会  
 10月19日 会員面談  
 " なんでも相談対応  
 10月19-23日 国保連合会歯科審査部会  
 10月20日 広島市保険講習会(リグロス  
 歯科用液キット説明会併催)  
 10月22日 第48回衆議院議員総選挙  
 10月23日 なんでも相談対応

**(4) 地域歯科保健部**

10月11日 (県)地域保健部、学校保健部、  
 介護・福祉医療部、口腔保健セ  
 ンター一部常任委員会  
 10月12日 平成29年度第1回広島市各区  
 地域包括支援センター運協  
 委員意見交換会  
 10月19日 定例委員会  
 10月22日 (県)健康ソフトボール大会  
 (台風の為中止)

**<学校保健> (有馬理事)**

10月 3日 (南区地対協)平成29年度  
 第1回広島市南区地域包括  
 支援センター運営協議会  
 10月 4日 (県)平成29年度8020運動推進  
 特別事業「子どもの歯と口の健康  
 格差解消事業第2回研修会

10月 5日 平成29年度すこやか食生活推進  
 リーダー研修会講師  
 10月12日 (南区地対協)南区市民公開  
 講座打合せ  
 " (南区地対協)医療介護連携  
 研修会企画会議  
 " (南区支部)理事会  
 10月17日 学校歯科健診欠員対応  
 10月21日 (南区地対協)南区市民公開  
 講座講師  
 10月23日 (県)第1回保護施設入所児支援  
 歯科保健活動会議  
 ・広島市保育園及び認定こども園  
 保健功労者表彰について  
 ・学校歯科健診について

**<地域連携> (小松理事)**

9月29日 平成29年度第2回広島市地域  
 包括支援センター運営協議会  
 " 広島県言語聴覚士会第3回  
 西部ブロック勉強会  
 9月30日 (県)平成29年度歯科医師認知症  
 対応力向上研修 広島会場  
 10月 4日 平成29年広島市在宅医療・  
 介護連携推進委員会第2回専門  
 委員会(在宅医療の推進方策の  
 検討)  
 10月 6日 (県)平成29年度広島県歯科衛生  
 連絡協議会後期高齢者歯科  
 健診・歯科保健事業検討会議  
 第1回打合せ  
 " (県)平成29年度広島県歯科衛生  
 連絡協議会複合型介護予防  
 事業検討会議第1回内部会議  
 10月 7日 (県)平成29年度歯科医師認知症  
 対応力向上研修 福山会場  
 10月10日 (県)平成29年度広島県歯科衛生  
 連絡協議会介護予防・日常生活  
 支援総合事業口腔ケアサービス  
 モデル事業第2回全体会議  
 10月12日 8020 推進事業について広島市  
 と広島大学との協議  
 10月16日 (中区地対協)第9回吉島多職種  
 連携会議第1回小委員会  
 10月17日 (県)介護予防・日常生活支援  
 総合事業口腔ケアサービス  
 モデル事業 翠町圏域拠点での  
 講演(サロンあすなろ会)  
 10月18日 平成29年度広島市歯科医師等  
 認知症対応力向上事業第1回  
 研修会講師事前打合せ



10月20日 (県)介護予防・日常生活支援  
総合事業口腔ケアサービス  
モデル事業 基町圏域拠点での  
講演

10月24日 安佐歯科医師会主催多職種  
連携講演会

<地域保健> (能美理事)

9月29日 (東区地対協)第9回在宅医療・  
介護連携推進事業企画会議  
" (東区地対協)第6回常任理事会・  
理事会

9月30日 (県)平成29年度歯科医師認知症  
対応力向上研修 広島会場

10月 1日 (県)健康サポートフェア2017  
(グリーンアリーナ)

10月 4日 平成29年度広島市歯科医師会  
学術講演会第2回救急蘇生研修会  
(実技)

10月 6日 牛田・早稲田包括支援センター  
主催介護予防～口腔ケア～

10月 7日 協議会対応

10月12日 8020 推進事業について広島市  
と広島大学との協議

10月13日 (東区)「在宅医療研修会」

10月14日 禁煙支援ネットワーク第15回  
研修会

10月16日 協議会対応

10月18日 平成29年度第4回広島市  
障害者施策推進協議会

10月19日 FMちゅーピー収録

10月20日 広島市歯科医師会保険講習会

10月21日 (県)産業保健師を対象とした  
歯科保健推進研修事業産業  
保健研究会での講演

(5)広報部 (橋岡理事)

10月 4日 第2回救急蘇生研修会

10月 5日 委員会

10月10日 委員会(情報発信部)

10月11日 広島ホームテレビと協議

10月16日 創立100周年記念事業準備委員会  
第6回会誌編纂委員会

" 委員会(情報調査部)

10月19日 FMちゅーピー収録

10月20日 保険講習会

10月23日 FMちゅーピーとの協議

FMちゅーピー (新聞掲載)

11月 1日 『『8020』いい歯の表彰式ならびに  
『グランドビューティフル歯ツヨク賞』  
認定授与式について』

能美和基氏(市歯会)

11月15日 「歯を抜いた後の対応について」  
広報部(市歯会)

(6)広島市歯科医師会ホームページについて  
ホームページアクセス数

一般サイト 訪問者2,296 (累計42,377)

ページビュー7,113 (累計191,817)

会員サイト 訪問者309 (累計19,400)

ページビュー1,016 (累計178,868)

広報部 … Talking Heads<最新情報>

掲載件数 67件(9/21~10/20)

(7)特別委員会

(8)救急蘇生委員会

(9)創立100周年記念事業について

10月16日 創立100周年記念事業準備委員会  
第6回会誌編纂委員会

10月23日 三役会で検討

(10)各部事業計画について

(11)歯科医療安全相談

10月16日 苦情 治療内容と治療費  
について(40歳代女性)

10月17日 相談 前医の治療内容と医院  
の対応について(40歳代男性)

「協議事項」

(1)会費について(3名)

終身会員資格取得による会費額変更  
について1名、会費額変更について  
3名承認

(2)支部経由の出務に対する補助について  
内容について確認・協議

(3)第3回救急蘇生講習会について

講習会開催日・内容について協議

(4)市民公開講座について

内容について検討・協議

(5)東区市民公開講座について

開催日・内容について協議

(6)平成30年度学校歯科医協議会

講師選定について

講師選定について協議

(7)学校健診について

内容について確認・協議

(8)太田川について

内容について協議

(9)クリスマスパーティについて

内容について協議

(10)新年互礼会について

開催日・内容について協議

- (11) アンジュヴィオレについて  
対応について検討・協議
- (12) YMCA 講師について  
講師選定について検討・協議
- (13) 創立 100 周年事業について  
内容について検討・協議
- (14) 2 月の理事会日程変更について

- 開催日の確認
- (15) その他  
特になし
- 「その他」  
特になし

会員の皆様へ

広島市歯科医師会だよりに関するご意見やお問い合わせは、各記事に担当部がある場合は、担当部の理事あてにお願いします。それ以外については、広島市歯科医師会事務局ないしは広報部担当理事橋岡優までお寄せ下さい。

広島市歯科医師会事務局 E-Mail: [hiroshima@dentalpark.net](mailto:hiroshima@dentalpark.net)

広報部担当理事 橋岡優 E-Mail: [s.d.c@helen.ocn.ne.jp](mailto:s.d.c@helen.ocn.ne.jp)

広島市歯科医師会ホームページ <http://www.hiroshima-da.com/>

会員専用ページ PASS : 2442662

新会館の住所及び連絡先

〒732-0057

広島市東区二葉の里 3 丁目 2 番 4 号

広島市歯科医師会 TEL : 082-262-2662

FAX : 082-262-2668

休日診療専用電話 TEL : 082-262-2672

